



進学先

関西大学

文学部

藤本 怜さん

海南高校

インタビュアー

青石千映
(AC 海南駅前校カウンセリングスタッフ)

第一志望の関西大学合格おめでとう！頑張ったね！自信はあった？

藤本： 合格の文字を見た時は今までで1番嬉しくて、いろんなことを我慢して努力してきたことが報われた感じがしました。でも達成感より、安心した、の方が大きかったかな。自信はなくて、受かってたらいいな、ぐらいの気持ちだったので。でももし不合格だったとしても“やり切った感”はあったと思う。

AC入会が高3の夏休み。それまではどんな勉強をしてた？

藤本： 1年の夏休み明けまでは硬式野球部のマネージャーをやっていました。その時は毎日7時半ぐらいまで練習があって、休日も基本は1日練習やったし、勉強は小テストの勉強だけ。小テストは頑張りました。古文単語・英単語・現代文の単語。不合格になったことは1回もなかったです。負けず嫌いやったし、“不合格”が嫌で(笑)高2になってからも、小テストの勉強はしてたから毎回合格で、定期テストも文系科目はちゃんと点数は取れてました。

青石： 2年生ぐらいから大学を考え出した？

藤本： うーん、どうやら…。大学に行くなら私大というのは最初から決めていました。数学のテストは1年の1学期で、あ、無理かも…。と。とりあえず和太、とも思えなかったです(笑)ただ、具体的に志望校を決めようと思ってピンとこなかったの、指定校推薦でよさそうなところがあれば出してみようかな、と思ってたぐらいで。2年の段階ではまだ勉強を始めようとはならなかったかな。1年、2年の評定は4.2か4.3ぐらいでした。

青石： いよいよ3年生になって。

藤本： 2年の最後の学校の3者面談で、勉強してるか？って聞かれて、してないです、って答えたら、笑ってる場合ちゃうぞ！って怒られて。3年生になったらやっぱり学校の先生も『受験生やから勉強しましょう』みたいな話が多くなってきたけど、その時もまだ何も決まっていなかったからどうしようかな、どうしたらいいんやろって。

青石： そんな状態から何かがどう変わっていきのけになったの？(笑)

藤本： 色んな大学からオープンキャンパスのメールが届いていたので、高3の6月にとりあえず関大に行った。そこやな。そこで変わった！

青石： ついに来た…！

藤本： 関大の紹介と文系学部の紹介、外国語学部と文学部を見に行きました。英語、文化、地理とかに興味があったから専修の多い文学部に魅力を感じて。それに雰囲気も良くて楽しそう。それを家に帰って家族に話したら、今までは『ここに行きたい』なんて言わなかったから、家族も『おお！』ってなって。で、本気で頑張りたいなら塾に行った方がいいんじゃないの？と言われて。今までは“塾行きたくない精神”だったので、そもそも勉強の習慣がついてなかったから、そこから毎日ちゃんとペンを持ったけど、小テストの勉強、単語、ちょっと学校のワークをやるぐらい。“勉強”って呼べないわけじゃないけど、“受験勉強”とまではいかんよな、ってことをしました。兄(ACターミナル校卒/岡山大学進学/藤本勝斗さん)も国公立やったから私大のことは聞いてもわからんし、方法もわからんから、ほんまに頑張るんやったら、塾を頼ってみようかな、と

思って。

高3の夏休み前、いよいよACに来てくれました。

藤 本： ACに來始めてからは、今まで勉強習慣なんて全くなかったくせに、急に何時間って集中して勉強できるようになった (笑)

青 石： 夏休みもほとんど毎日来てたもんね。

藤 本： 久保田先生の英語(受験攻略基礎英語、共通テスト攻略英語)、古文はサテライン授業(古文常昇！うるトラC／漆原講師)を受けて、その後、夜9時ぐらいまで自習しました。

青 石： EQ(英語基礎力養成講座)も受けてもらいました。

藤 本： EQは学校の小テストとは違って、今週分が終わったら翌日から次の範囲をやり始めないと間に合わない。EQに時間かけすぎ、って言うぐらい毎日やってたな。でもそれがめちゃくちゃ役立ちました。いっぱい出てくる。日本語の意味が同じでも、複数のフレーズを覚えることができたし、検定が終わった後も、定期的に復習して忘れないようにしていました。ただ、英語・国語の2教科中心で勉強してたら、10月ぐらいの共テ模試で政経が30点台のままやって…。

青 石： さすがにこれはマズイ！政経はサテライン講座の夏期講習と冬期講習を集中して受けよう、って話をしたね。

藤 本： 次の模試までにここまで上げよう、って決めて。そしたらハマった(笑)そこからずっと政経を勉強してました。

青 石： 怜は、英語の土台はそれなりにできていて。そのおかげで直前期に政経がヤバイ！となっても、政経に時間をかけられたね。

藤 本： 英語も基礎から始めてたら絶対間に合ってなかったと思います。

ACの授業はどうでしたか？

藤 本： 久保田先生の授業は解説がわかりやすくて面白かったです。でも最初は何を言っているか全然わからなくて。みんなで発言したり話し合ったりする時間があるんですけど、みんなが何を言っているのかわからない。みんなは理解してるから質問したりしていて。こんなにわからんもんなんや！と思って焦った。受験英語では英文の構造を理解するルールみたいなものとかが大事、SVOとかSVOCとか。それを全然勉強してなくて。学校の定期テストも英コミはできるけど、論表があんまり。今までは覚えるだけで理解できてなかった。だから久保田先生の言うことをテキストに全部メモしました。それを見直して復習していくうちに、だんだん『そういうことか！』って理解できるようになってきて。始めるのが遅かった分、毎日、基礎を徹底して理解しようと思いました。入試で問われやすいポイントや引っかけやすいポイントなどを教えてもらえてよかったです。共テって、結構“単語ゲーム”なところがあって。単語の類義語とか言い換えが設問にあって、ターゲットを1500ぐらいまで覚えたら7割ぐらいとれるようになった。最後1900まで覚えきったら初めて8割のった、ぐらい。単語を覚えたら結構伸びていく感じがしたけど、関大は難しかった。単語の知識はもちろん

必要やけど、色々“ルール”を理解できてなかったら無理やったなと思います。

青 石： 特別講座の秋特訓も参加してくれました。

藤 本： ターミナルで公募対策の講座を受けて。私大の問題を解いたんですけど、そこで久保田先生の解説を聞いたら、普段の授業で何回も何回も習ってきたこと、覚えてきたことが一気に繋がって。文の構造を理解できたというか。全部納得できて。より面白くなりました。それぐらいから、チェックテストのプリントの内容とか問題を解いていく中で、この場合やったらどうなるん？って色々考えたり、質問したりもできるようになってきて、すっきり！あと、ターミナルに行った時、海高生以外の本気で頑張ってる受験生がたくさんいてやる気が上がりました。

青 石： サテラインはどうだった？

藤 本： 古文は、語呂合わせや替え歌を使って覚えさせてくれて、解説がおもしろかったです。テキストにもいろいろな資料が載っていて、大切なことがたくさん詰まっていました。自分の学力レベルに合ってたと思います。古文はそれまで定期テストの勉強しかしてこなかったから、3年になって学校の授業で叩き込まれた基礎知識を、漆原先生がさらに深めてくれた。1学期分を夏休み中に受け終わって、その時点で多分基礎は固められたと思います。テキストの後ろに載ってるまとめ部分も含めて何回も復習したし。それで初めて問題を解ける状態になったかな。でも古文は最後までちゃんと内容理解できるところまではいけなかったと思う。単語とか文法は覚えたからそれで乗り切った感じかな。関大の古文は、文章は長いけど、共テより解きやすかったのでラッキーでした。結構単語の意味を当てはめていったらいけるような問題があった。

青 石： 政経(畠山創の政治・経済爽快講義)は？

藤 本： 計算問題や需要供給曲線とか、苦手な分野をわかりやすく解説してくれたのでよかったです。授業の中で先生が憲法を読むのが大事ってずっと言ってたので、テキストに載ってる憲法条文の重要部分を何回も見て、100円の先生おすすめの憲法穴埋めアプリをインストールして電車で毎日見てました。一言一句全て暗記してたわけじゃないけど、一文を見たらだいたいこの内容やなとか、何条から何条まではこんな内容、とか、そういうことは覚えました。あとは授業にあわせて、集中講義の参考書に書き込んだり、グラフや統計は学校の資料集で確認したり。共テや関大の過去問の直しも集中講義に付箋を貼って。あとは時事問題によるなって。憲法、大事でしたね。

受験に向かっていく後輩たちへ、アドバイスをお願いします。

藤 本： やってなさすぎて全然言えやん…(笑)けど、小テストは大事！不合格になったことがないから、どのぐらい評定に影響するのかわからんけど。再テストとか再提出とか、そういうのは絶対に時間の無駄やし、どうせ定期テストの範囲になるし。最悪前日からでも詰め込んだらなんとかなるから小テストは頑張って合格してほしいです。定期テストもできるだけ高い点数を。あとは学校行事を楽しんだらいいと思う。3年生は、志望校は早く決めましょう、かな。決まっていなかったら、何をしたらいいか、何か

ら始めたらいいのかわからない。本当は2年の冬休みぐらいに決めるのが良かったと思う。志望校が早く決まるとそれだけ目標が明確になって、勉強のやる気も上がるし。国立目指すなら科目数が多いし、私大でも選択科目があるし。遊んでいる人たちには流されず、自分のために頑張って勉強することが大事だと思います。あと、単語を後回しにしてた人も結構いたけど、私は英単語や古文単語などの暗記系は絶対に毎日やるべきやと思う。これはほんまに毎日やった。できれば3年の春から。

青 石： 受験生活の思い出は？

藤 本： …塾の風景しか思い出せやん！自習室の(笑)塾は楽しかった。みんなで色々できたし。海南勉強会もよかった。勉強は1人でするもの、1人でもできる、と思ってたけど、みんなで集中して勉強できたのがよかったです。合格祈願に行ったり、EQで競争したり。ACに來たのは3年の夏休みで短い間だったけど、先生も授業も楽しくて。ACに通ってよかったです。自分がどこまで目標のために頑張れるのか、1年前まではここまで頑張って大学に合格するなんて少しも考えてなかったし、毎日毎日勉強なんてやる気もなかったけど、好きなことを我慢して限界まで頑張ることができて本当にいい経験になったと思う。しんどい時もあったけど、忘れられない大切な思い出にもなりました。

編集後記 ～インタビューを終えて～



関西大…あと半年、どこまで挑戦できるか…初めて会った時、そう思ってしまったのが正直なところですが、取り越し苦労でした！入塾してからというものの、授業の有無にかかわらず毎日自習室で勉強、来ない日は他のメンバーと『今日どうしたんやろ？』とみんなで心配していたぐらい(笑)。塾で自習する“いつものメンバー”は男子が多く、また、高校内では年内入試で進学先が決まる友達も多い中、文化祭、体育祭が終わった後でも、ペースを崩すことなく『友達は友達、自分は自分』マイペースにどんな状況でも自分の目標に向かって努力を重ねる姿を見て『怜なら大丈夫、絶対合格できる』と思えるようになりました。藤本さんの勝因の1つは、英単語や英文法等の英語の基礎的な知識は身に付けられていた、ということ。ACの授業を受け始めて、必死でメモを取り、復習して自分のものにしようとしても、語彙力・基礎力がなければ、「ただ聞いているだけ」の授業が続いていたと思います。毎日の自習、普段の授業はもちろん、海南勉強会や秋特訓等にも積極的に参加、また、チェックテスト(単語・文法)やEQなど課されたものは、すべて“満点”で合格するためにやりこむ負けず嫌いな性格、努力、根性、すべてが合わさってこの合格につながったんだ、と改めて感じました。本当におめでとう！『AC海南駅前校で、みんなで頑張ったこと』が、藤本さんの受験生活の中で1番の思い出になっていたようで嬉しいです！これから始まる大学生活が充実したものであるよう祈っています！和歌山に帰ってきた時には、ぜひACに来て色々話を聞かせてくださいね！

AC海南駅前校カウンセリングスタッフ 青石千映